

伊予市 じんけん教育

2007 No. 5

～ 一人一人の人権が尊重される、明るい伊予市をめざして ～
 編集・発行／愛媛県人権教育協議会伊予市支部・伊予市教育委員会 (〒799-3113 伊予市米湊768番地2 ☎089-982-5155)



■ 人形劇に夢中

伊予市で最も南に位置する下灘保育所は、海と山に接し、自然環境に恵まれています。七年前から異年齢保育に取り組み、子どもたちが遊びを自分で選択し、主体的に活動する中で、友達とのかかわりを大切にしながら、仲間づくりができるよう見守っています。年長児が小さい子どもが年長児のするのを見て、あこがれをもち、まねたり、教えてもら

すくすくのびる子どもたち
 — 地域の人たちにはぐくまれて —
 下灘保育所



■ 親子でハイポーズ

つたりする姿が見られます。各種行事では、園外のいろいろな世代の方とふれあいがもてるようにしています。未就園児や小学生を招待して一緒に人形劇を見たり、一年生になっっている卒園児を招いて、保育所の畑で栽培したじゃが芋を収穫し、おやつにして仲良く食べたり、保育体験の中学生と元気に遊び、クッキングを楽しんだりしています。親子レクリエーションや運動会には、



■ おばあちゃん見よって

母親はもちろん父親、祖父母も協力的に参加しています。高齢者のデイサービス施設とも交流をもち、ふれあいながら歌ったり、指遊びやゲームをしたりします。また、一緒に折り紙をして遊ぶこともあります。三世同居の家庭が多いので、自然にお年寄りになじんで笑顔もみられ、ことばのやりとりも広がっています。小規模な保育所の小さな集団の中に閉じこもらず、様々な世代の方とかわり、いろいろな体験を通して身近な人への親しみや感謝の気持ち、自分を大切にしている心、相手を思いやる心をもてるよう、成長を見守っていきたいと思います。

人権・同和教育の取組

―人権感覚を身につけるために―

伊予市立由並小学校

本校では、「よく学び 最後までがんばる 児童の育成」の教育目標のもと、「差別に気付き、差別を許さない児童の育成」を目指し、取り組んでいます。

■互いに認め合う意識を育てる 学級づくりの推進

人権・同和教育を推進していくうえでは、学級において一人一人が、かけがえない人間として大切にされていることを実感でき、存在感や充実感を味わえることが重要です。

そこで、日常的な活動では、お互いの理解を図るために朝の会で自分自身のことや興味ある事柄について語り合う一分間スピーチを実施したり、多くの友達と楽しさを共有できるように、学級担任も参加して昼休みに学級全員での遊びを行ったりしています。また、帰りの会で友達の考えや行動で素晴らしいと思ったところを紹介して、友達のよさに目を向け、互いの良さを認め合える場を設定し、安心して自分を語れる学級づくりに努めています。

学級活動では、「友達の考えを聞いて、新しく分かったことや感心したこと」「友達の考えを聞いて、自分ができそうなことや取り入れられそうなこと」「自分が友達と一緒に考えたり活動したりしたこと」でうれしかったことやよくなったこと



■ 人権劇の発表

昨年度は、双海町社会福祉協議会ともしび会の方々に、人権劇で使う衣装や小道具作り、着付けなど協力していただき、劇を完成させました。当日、集会にも参加していただき、「命はひ

と」など、授業のねらいに即して自他のよさを見付ける活動を行っています。そして、「私の考えがみんなから認められた」「〇〇さんは素晴らしい考え方をしていた」などの気付きを学級全体に伝え合い、高め合う活動を行う中で、自分の大切さはもちろん、友達の大切さを実感できる授業づくりを行っています。

■ 同和問題学習の推進

道徳や特別活動、総合的な学習の時間を軸に、身の回りにある様々な人権問題を自分のこととして受けとめたり、差別をはね返す取組を学んだりして、「差別は絶対にしてはならないこと」に気付き、行動へとつながる学習を進めています。そして、人権・同和教育の視点に立った授業や人権劇など、学校での取組を公開することで保護者や地域にはたらきかけようと、毎年二学期に校内人権集会を行っています。

とつ。その重さは、みんな同じです。そのことを考えて、一人一人が行動することで差別やいじめをなくすことができます。」など、授業や人権劇に対する意見を進んで発表していただきました。また、今年度当初、校内人権集会に向けて話し合いをおとして、「人権集会は一日だけど、それまでの学習の集大成を保護者や地域の方々に見ていただく日」と、位置付けました。そのことを教職員が共通理解して、研修に励み、人権感覚を磨きながら、日常的な指導・実践を積み重ねています。

■ 仲間意識を育てる 学校集団づくりの推進

本校では、年間を通じて、縦割り班活動で清掃、遠足、運動会、児童集会を行っています。そして、それぞれの活動の中で、児童は、建設的な話し合いによって自分や友達の願いをもとに満たせる解決方法を見いだして実行したり、それぞれの役割を分担したりして、よりよい人間関係づくりを学んでいます。



これまでの取組によって、自分の悩みや意見を学級ではつきり言ったり、日常生活で存在する差別や偏見に気付いて、「みんな仲間」ということを再確認したりしたという点で一定の成果が見られました。しかし、今、求められるのは、自らをよりよい方向へ変えていこうとする行動力、勇氣です。今後、共に生き、共に伸びる集団活動をおとして人権意識を高め、問題解決のために自分ができることを行動しようとする意識や実践力を育成する取組を積み重ねていきたいと思えます。

愛媛県人権教育協議会伊予市支部総会

2007年(平成19年)6月8日(金) 伊予市市民会館

多くの会員さんを迎えて、本年度の総会が開かれました。開会行事で、上田支部長は、「人権の世紀と言われる現在の現在、同和問題をはじめあらゆる人権問題が山積し、また、子ども社会にもいじめ問題が後を絶ちません。いじめ問題の防止と早期解決のために、伊予市教育委員会内に専門の相談員を配置して、この課題に対処しています。より広く、多くの人権問題解決のため、本協議会伊予市支部も本年度の活動の充実を期して参ります。ご協力をお願いします」と、あいさつをしました。

つづいて、総会行事に移りました。



■ 総会風景

支部活動の核となる基本方針、事業計画、予算書の審議を行い、活発な討議がなされ、承認されました。引き締まった総会でした。そして、役員改選を行って総会を終えました。

《記念講演》

「同和問題と人権問題」

愛媛県人権啓発指導員 森 謙司さん

自己紹介の後、「日本人の人権に対する考え方や行動のレベルはどうだろうか」と投げかけられ、「一九八一年に来日したマザーテレサが、マスコミに応えた言葉を引用されました。彼女は、「日本は経済的には豊かですが、人権に関しては後進国ですね」と、即答したそうです。当時は、国民生活の中に人権という意識が十分広まっていなかった時代でした。

朝の新宿駅前で大勢の人々が職場等へ急いでいます。一方、道路の片隅には、ホームレスの人がうずくまっていますが、人々は声も掛けません。見向きもしません。ショッキングな光景に接し、瞬時に出了たマザーテレサの言葉だったそうです。

そのころから、人権について日本の国も意識して取組を進めました。世界的に認められるレベルまで上がったかどうかが疑問があります。



人権に関わる事例を紹介しながら日本のマスメディアの報道、外国メディアの厳しいとらえ方

等をお話され、我々ももっと人権に対してシビアな感覚を持たなければならぬことを改めて感じました。

また、現在大きな社会問題となっている子どもの人権問題、特にいじめを中心とした事例を交えながら話されました。いじめがもとで、子どもが自殺していること、そのことが連鎖的に広まっていること、そして、現在も解決したわけではないことを心配しながら話されました。大人の会話に「昔もいじめがあった。いじめはなくならない」といった無責任な発言があります。「これは、いじめを受けて、思い詰めている子どもの気持ちを全く理解していない言葉です」と、強く戒められました。

いじめの特徴を三つ上げました。一つ目は、悪質であること。二つ目は、陰湿であること。三つ目は、加害者と被害者が仲の良い友達を装い、親に安心感を持たせるといふ悪知恵を働かせていることです。いじめの形態が巧妙化したと言われている側面でしょう。

最後に部落差別について話されました。今、心配していることとして、インターネット上で差別行動を起こしている人がいることです。文面を見ても、同和教育を受けた人の書き込みと思わざるを得ません。世の中を混乱させて様子をながめているような、そんな行為は許されません。

「同和問題は、外国の人々は理解しがたい日本固有の人権問題ですが、指導的な立場の方は勿論、我々一人一人がおかしいと感じたら、おかしいと言って同調しないことが解決への鉄則です」と結ばれました。



■ 開会行事・全体会風景

第五十四回 四国地区人権教育 研究大会に参加して(参加者の感想)

二〇〇七年(平成十九年)七月五日(木)・六日(金) 徳島市

「四国はひとつ」の合言葉のもと、五十四回を数える研究大会が開催されました。同和問題をはじめさまざまな人権問題の解決を目指して、研究と実践に取り組み、着実な成果をあげてきました。これまでの同和教育の成果と手法を大切にしながら、人間の尊厳と人権の確立を

目指し、今後の人権教育のあり方と、さまざまな人権問題を解決する実践の道筋を求めた研究大会でした。

〈紹介〉参加者の感想

私は、七月五・六日の二日間、徳島市で開催された第五十四回四国地区人権教育研究大会に参加する機会が与えられ、緊張しながら、各種社会教育関係者の方々と一緒に勉強することができました。

早朝出発し、「アスティとくしま」で開会行事があり、午後は徳島市役所の分科会場へ移動しました。私が参加した第四分科会は、「人権確立を目指す地域の教育力A」でした。研究テーマは、「人権確立を目指す地域の教育力をどのように創造しているか」で、討議の柱は、人権尊重のまちづくりをするには、どのようにして子どもたちを育てていけばよいのか。どのようにすれば人権と共生できる社会をつくることのできるのかです。このような重点目標のもと、各地域の代表者からそれぞれ熱心に人権の



■ 吉野町の獅子舞 (吉野中学校郷土芸能活動)

まちづくり、家庭・学校・地域社会での取組等が発表されました。一定の広がりには定着しつつあるが、まだまだ厳しい差別の現実が残り、多くの問題があることを実感しました。

自分自身が変わらなければ、自分自身が入っていかなければ、前には進まない、総評の際に話されましたが、その通りだと共感致しました。実際の体験を通しての発表で、心を動かされることが多くありました。参加してみて、どの県もどの地域も本心に真剣に取り組んでいる様子を知り、まだまだ大きな問題が残されており、今後も人権確立のために地域社会が本気で、身近な問題として取り組まなければならないと心に深く感じ、有意義な二日間の研修でした。

(5)

平日の夜忙しい時間帯にもかかわらず、どの会場も子どもたちを含め多くの方にご参加頂きました。広報区長さんをはじめ、広報委員さん、協議員(評議員)さん、各種団体の役員さん方のご協力により、大変充実した懇談会となっております。

中でもビデオの視聴では各世代毎に起こりうる差別とそれに対する取組が示され、質疑応答では、幅広い世代から意見が出されました。今後も地域ぐるみの人権・同和教育の更なる推進に努めて参ります。皆様のご協力をお願いします。

『私の好きなまち』を目指して

上野地区公民館

本年度の人権・同和教育懇談会を八月から各集会所において開催しています。進行は、①伊予小・中学校児童生徒によるポスター・標語の発表、②ビデオ「私の好きなまち」の視聴、③伊予小・中学校の先生、社会教育指導員による講話と質疑応答、という流れで行っています。



■ ビデオ視聴後の講話

第9期オピニオンリーダー養成講座

「あなたも『人権』について、いっしょに学習してみませんか!」のテーマのもと、五回の講座で研修を行いました。一回の研修時間は九十分間ですが、講師と研修内容は毎回違って、変化に富んでいます。

二十一世紀は人権の世紀と言われていますが、生活の中に存在する同和教育をはじめ、あらゆる人権問題の解決に向けて、講義、参加体験型学習等で充実した研修を行いました。自分は意識していないが、心の中に偏見や差別心があることを感じ、それを、差別的言動につなげることなく、偏見の芽をつみ取るためには、研修が大切だということを再認識しました。

人権・同和教育の解決のために、「傍観者

「部落差別解消のために」というテーマで、多くの体験談を話され、よく分かりました。「家庭の中に偏見と差別の芽を作らないことが一番大切です」と、強調されました。



「部落差別解消の歴史」というテーマで、講義が中心の研修でした。部落差別がどうして起こったのか。後世まで残ったのはなぜか。自分たちは解消にどう取り組むべきか。資料を使い、分かりやすく話され、勉強になりました。



ワークショップ「フォトランゲージ」で、班の代表として、話し合った事柄を報告しました。まとめて報告する難しさもありましたが、自分にとっていい勉強になりました。

ではなく実践者でありたい」という思いを強めるとともに、今回の研修を生かし、自分ができることから実践していく気持ちを大きく広げさせて、五回の講座を終りました。

ワークショップ ちがいのちがい



自分たちの生活の中で次のような場合、どう考えますか？
○△×を入れてみましょう。また、どうしたいと思いますか。

○：あってよい △：どちらともいえない ×：あってはいけない



男性はたばこを吸うが、
女性はたばこを吸わない。



あなたはどう考えますか。

.....

.....

.....

喫煙が許される年齢は、法律で定められています。しかし、性別によつての吸う、吸わないの定めはありません。いろいろな考え方がありましようが、…。話題にしてみませんか。

あなたはどう考えますか。

.....

.....

.....



姉は門限があるが、
弟は門限はない。

この事例について、どう考えますか。いろんな考え方があると思いますが、話題にしてみませんか。

第9回 「人権を考える市民の集い」

多くの人のご参加をお待ちしています

と き 平成19年11月3日(土) 9:00~12:00

と ころ 伊予市市民会館大ホール(入場無料)

記念講演 演 題 / 「ぬくもりを感じて」

講 師 / ^{なか} ^{くら} ^{しげ} ^き 中 倉 茂 樹 さん

徳島県同和地区青少年団体連絡協議会「止揚の会」事務局



講演中の中倉茂樹さん

【講師プロフィール】

- ◇1999年 徳島県西部青年の会「友輝」設立
- ◇2000年 徳島県同和地区青少年団体連絡協議会「止揚の会」事務局
- ◇2004年 徳島県人権・同和教育講師団講師

「部落差別」を語る時マイナスイメージを持っていませんか？暗くて怖い…。そんな気持ちを持っていませんか？そんな気持ちをなくすことが問題解決に導く一歩だと思ひます。「人権学習、同和教育は皆が幸せになるための勉強」「人にぬくもりを与えられる人間になろう」中倉茂樹さんの信念です。

部落の心を伝えるため「ぬくもりを感じて」と題する映画を約30分間鑑賞し、その後1時間の講演があります。学生時代の体験、社会人になっての体験をベースにした中倉茂樹さんの考え方、生き方について、私たちの心をゆさぶる素晴らしいお話だと思ひます。